

滋賀県立大学国際シンポジウム

内陸アジアにおける資源開発と社会・環境の変容 —モンゴルとチベットのフィールドから—

企画について

内陸アジア地域は、かつて遊牧民および彼らが築き上げた遊牧文明の揺籃の地であった。モンゴル高原を例にするならば、気候は、「乾燥」と「寒冷」が特徴の典型的な大陸性のステップ気候である。草原世界で人は家畜を放牧しながら、移動する遊牧世界を展開してきた。この遊牧という生業は、農業と比べると環境負荷が低く持続可能性の高い「環境にやさしい生業」であるといわれてきた。

ところが近年、農耕化以上に深刻な、モンゴル高原の遊牧世界の存在基盤を揺るがすような大きな変化が起こっている。それは、金や石油、石炭、ウラン、モリブデン、ボーキサイト、レアアースといった地下資源の発見である。モンゴル国では、世界最大級の炭鉱や多くの金鉱山が見つかった。2009年のデータによると、モンゴル国において鉱業がGDPに占める割合はすでに28.2%に達し、農牧業の18.8%を凌駕している。モンゴルは、もはや「遊牧の国」ではなく「地下資源の国」なのである。そうした中で、伝統的な遊牧社会の崩壊や大気汚染や水質汚染といった環境汚染が懸念されている。

また、中国内のチベット人居住地では、近年環境の保全をうたって、乾燥地や急傾斜地での耕作を禁止する「退耕環林・環草政策」や、放牧という生業そのものを禁止する「生態移民」「定住化プログラム」といった政策が次々に実施されている。それは、農業と牧畜を生業の柱とするチベット人の生活と文化に対して、根本的な転換を迫るものとなっている。

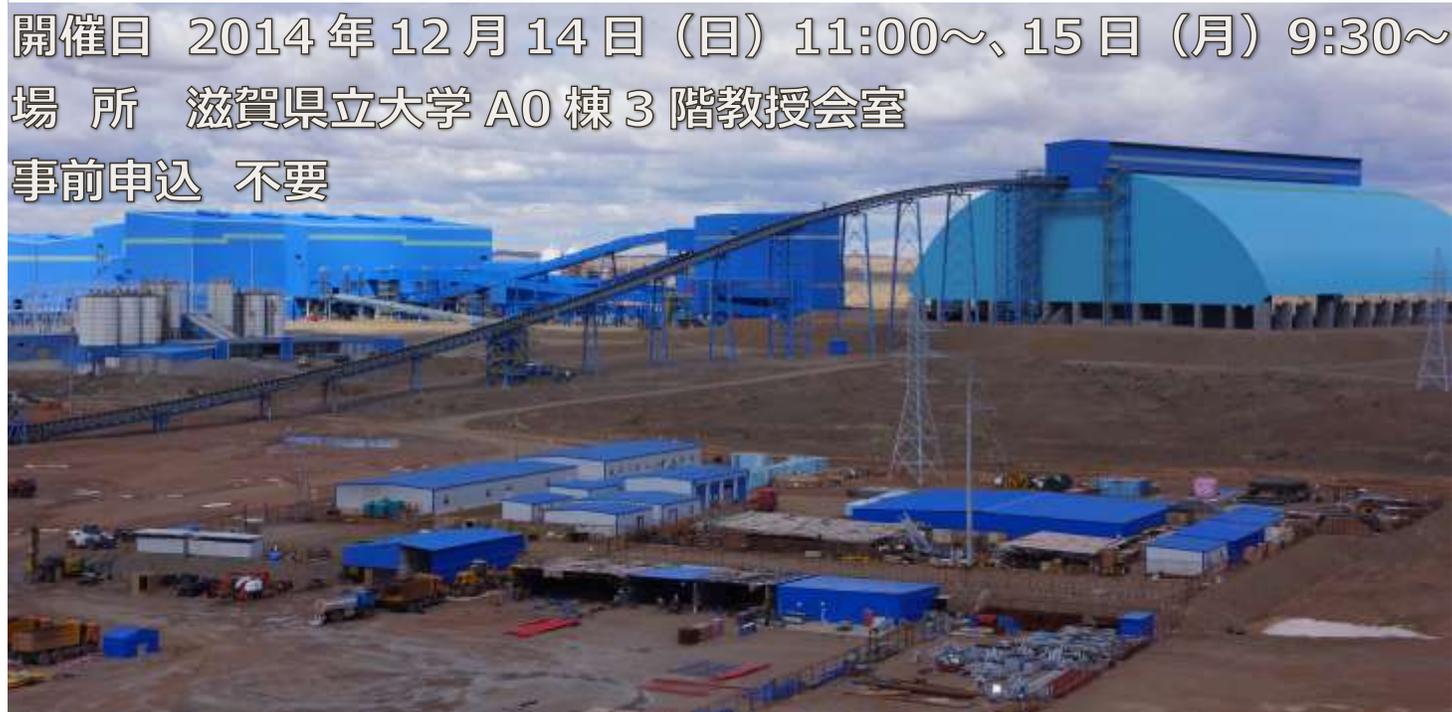
こうした状況を受けて滋賀県立大学では、学内プロジェクト「内陸アジアにおける地下資源開発による環境と社会の変容に関する研究—モンゴル高原を中心として」（重点領域研究）を立ち上げ、2012年度より、文化人類学・環境科学・歴史学などの研究者がモンゴル国、中国内モンゴル自治区、中国青海省黄南チベット族自治州などで文理融合型の調査を推進してきた。

本シンポジウムは、この重点領域研究の総仕上げとしてプロジェクトのメンバーのほか、イギリス、フランス、モンゴル、中国内モンゴルなどの国外研究者を招聘して、資源開発における諸問題を文化人類学・環境科学の分野から議論していく。

開催日 2014年12月14日（日）11:00～、15日（月）9:30～

場所 滋賀県立大学 A0 棟 3 階教授会室

事前申込 不要



プログラム

■2014年12月14日(日)

- 11:00 開会のあいさつ 大田啓一 (滋賀県立大学学長)
11:05 趣旨説明 棚瀬慈郎 (滋賀県立大学教授)
11:15 基調講演 ウラディン・ボラグ (ケンブリッジ大学教授)
12:00~13:00 昼食

第一部 モンゴル国における地下資源開発と環境・社会の変容

- 13:00 S.チョローン (モンゴル科学アカデミー歴史学研究所)
「鉱物を探し求めて：モンゴルソ連の地質共同調査の歴史と資料 (1966-1992)」

- 13:45 G.ジャンバラクチャー (モンゴル科学アカデミー歴史学研究所)
「衛星牧民、あるいは南ゴビ鉱山開発地域における遊牧民の生存戦術」

- 14:25 グレゴリー・デラパレス (パリ第10大学)
「An open air treasure in Mongolia. A short history of the uranium mining town of Mardai」

コーヒーブレイク

- 15:30 島村一平 (滋賀県立大学)
「鉱山を渡り歩くシャーマン—モンゴルにおける地下資源開発と『依存的抵抗』としての宗教実践」

- 16:00 Ch.ジャブザン (モンゴル科学アカデミー地球環境学研究所)
「モンゴル鉱山と環境」

- 16:45 中澤暦・永淵修・岡野寛治・尾坂兼一 (滋賀県立大学)
「モンゴルの鉱山周辺域における水質汚染」

- 17:15 ゲレルト・オド (モンゴル科学アカデミー、慶応大学大学院生)
「モンゴル・ザーマル金鉱における環境への影響」

17:45 質疑応答

18:30 レセプション (滋賀県立大学)



■2014年12月15日(月)

第二部 内モンゴル：民族問題化する地下資源開発

- 9:30 ウチラルト (オーストラリア国立大学アジア太平洋研究センター)
「内モンゴル・シリングル草原における資源の乱開発と住民の反対運動」

- 10:05 包宝柱 (内モンゴル民族大学)
「鉱山開発に抗する「防波堤村」—中国内モンゴル自治区ホーリンゴル炭鉱における牧民と開発企業との攻防」

休憩

- 10:50 ボルジギン・ブレンサイン (滋賀県立大学)
「黄金の仔馬(アルタン・オナガ)はどこへ行ってしまったのか—遊牧民の自然観における地上資源と地下資源の一体性」

第三部 中国青海省黄南チベット自治州における環境政策と社会変容

- 11:25 棚瀬慈郎 (滋賀県立大学)
「環境破壊と環境保護政策のはざままで—追いつめられるチベット人コミュニティ」

昼休み

- 13:05 ナムタルジャ (滋賀県立大学大学院生)
「生態移民、定住化プロジェクトによるチベット遊牧社会の変容」

- 13:35 デンチョクジャブ (旦却加) (滋賀県立大学大学院生)
「チベット農村地域における退耕環草政策とその影響について」

コーヒーブレイク

14:20~ 総合討論

15:20 終了

滋賀県立大学 A0 棟 3 階教授会室

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

連絡先：島村研究室

TEL 0749-28-8405 FAX 0749-28-8470

E-mail: ishimamura@shc.usp.ac.jp